

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立富士中学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、生徒の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日(火)

■ 調査の対象学年

中学校3年生徒

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・理科)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 |
| ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 |
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

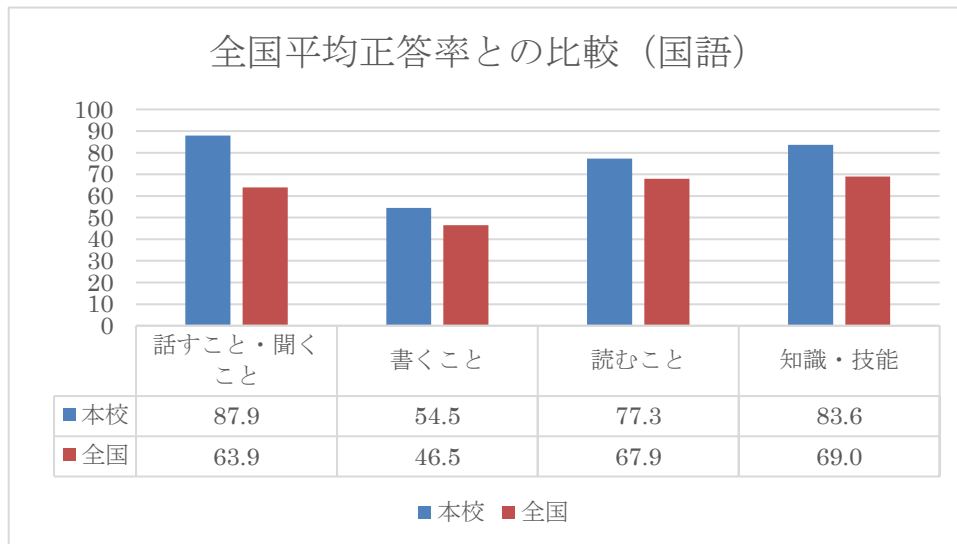
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語、数学、理科に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部分」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

4つの項目とも全国平均を上回っています。無回答は全問ゼロでした。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」が全国平均と比べて、14.6ポイント上回りました。日頃から、漢字や言葉の学習、音読などを行っている成果が表れていると考えられます。

課題としては、とりあげられた話題に対して、自分が考えたことを文章の中から根拠を示して書くことに苦手意識をもっている生徒が2割ほどいることです。これからの授業の中で、様々な表現の仕方を多く体験させ、適切なアドバイスを送ることで、自分の言葉で書くことに慣れさせていく手立てをとります。

(3) 学力向上のための取り組み

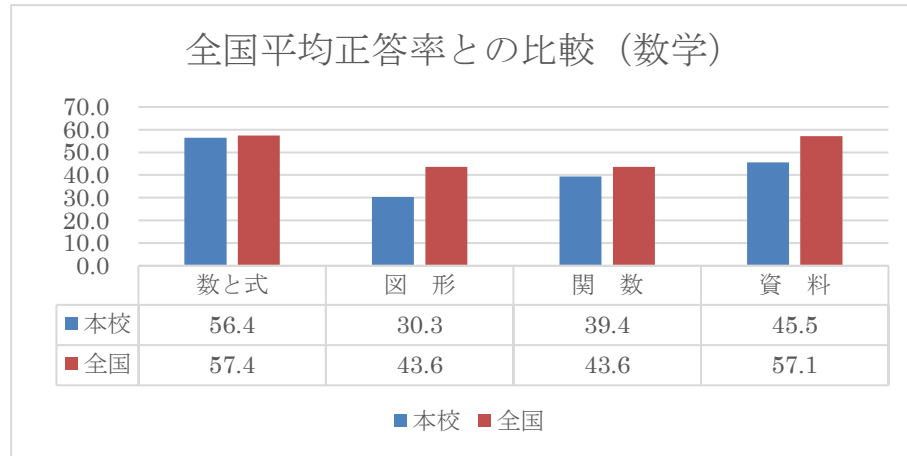
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかける機会を増やします。
- 漢字の読み書き、言葉の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語い力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読は五感を刺激し、学習効果を高める有効な学習活動です。繰り返し音読し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになることは、文の構成、言葉の意味を理解することに役立ちます。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。家庭学習でも、音読をとりいれてみてはいかがでしょうか。
- 文学・科学・歴史・地理・芸術など、様々な本を読み、様々な表現や用語にふれることで、語い力を高め知識の幅を広げることができます。公立図書館や書店に定期的につれて行くことも、子どもの読書習慣をつける上でおすすめです。

2 数学



(1) 結果

内容・領域等においては、「数と式」は全国平均とほぼ同程度でした。「図形」「関数」「データの活用」においては、全国平均を下回っており、特に、「図形」「データの活用」はが全国平均を大きく下回っていました。評価の観点においては、「思考・判断・表現」では全国平均をやや下回っており、「知識・技能」は大きく下回っていました。また、無解答率は全国平均と比較すると全内容・領域とも低く、「知識・技能」の技能を伸ばす手立てが必要であると思われます。

(2) 成果と課題

数と式では、連立二元一次方程式を解いたり、考察や説明したりする問題の正答率が高かったです。また、素因数分解については、正答率が低く、反復して取り組ませることで、基礎力を高める必要があります。図形では、無解答の問題は少なく、図形に対する関心は高い方だと言えます。ただ、反例の意味や合同条件、証明といった数学的な「知識・技能」の定着と、それを活用する力をつける必要があります。関数領域では、変化の割合については、無解答者も多く、正答率も低かったです。グラフの特徴を表と関連付けて理解することや、グラフだけでなく表から読み取る力が必要です。データの活用では、確率の意味やデータの傾向・分布の読み取りと正答率が低かったです。データの活用に関する問題を定期的に行い、その必要性や有用性を理解させることが大切であるといえます。また、グループ活動を取り入れた授業や、様々な場面（テスト・課題）で同様の問題を取り扱っていく必要があると思われます。

(3) 学力向上のための取り組み

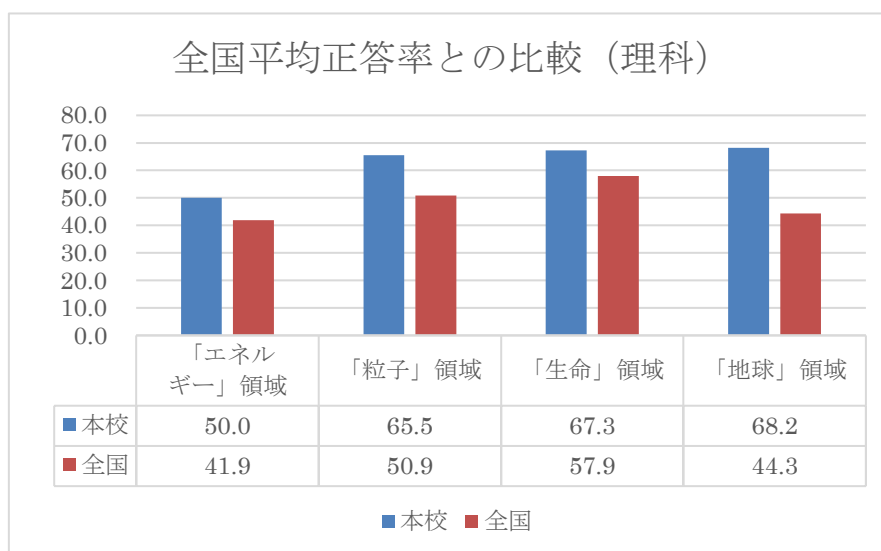
【学校では】

- 朝の小テストの充実や課題などの提出率向上に努め、計算力などの底上げを行います。また、単元毎の基礎的な内容も取り入れ、確実な習熟を目指します。
- 数学で学習する用語を使いながら、自分の意見や考えを書く時間を確保します。また、発展問題では、知識・技能のつながりがあることを意識させ、活用力の向上を図ります。
- 細やかな日々の指導を通して、個々のつまづきへの早期対応、視覚的に分かりやすい授業の実践に努めます。

【ご家庭では】

- 数学は毎日1問でも解くという習慣が力につながります。多くの問題に挑戦、いろいろな解き方を学ぶことが大切です。課題やテストに目を通し、今何を学習しているか、確実に理解できているか、解くのどれくらいの時間がかかっているかを把握し、たくさんの励ましや称賛の言葉をかけてください。

3 理科



(1) 結果

全領域で全国平均を上回りました。特に、「粒子」、「生命」、「地球」領域での正答率が高かったです。また、無解答率を見ると、すべての問題で全国平均より低く、解答をあきらめない姿勢がみえる結果となっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、すべての領域の正答率が全国平均正答率を10～20ポイントほど上回っていました。毎時間、少人数（ペア）で観察・実験に主体的に取り組ませた成果が表れていると感じています。具体的には、「ばねと力の関係及び静電気」や「水素の燃焼」などの領域で、その根拠を実験の結果を基にして思考する問題の正答率が高くなりました。

全国的には、問題形式の「短答式」の問題での誤答が目立ちましたが、これは本校にも当てはまることから、日々の授業の中で、説明する活動、書く活動を継続して取り入れ、記述した内容を確認させることなどの実践を通し、「思考・判断」の力の育成が重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上することもあります。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果（「している」「どちらかといえばしている」の回答）

調査項目	本校 %	全国平均 %
1. 朝食を毎日食べていますか。	90.9	91.9
2. 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	81.8	79.9
3. 平日に、SNS や動画視聴などを1時間以上していますか。	45.4	75.8
4. 将来の夢や目標を持っていますか。	72.7	67.3
5. 自分で計画を立てて家庭学習に取り組んでいますか。	90.9	58.5
6. 平日、家庭で2時間以上勉強していますか。(塾・家庭教師を含む)	90.9	69.5
7. 新聞を読んでいますか。	18.2	9.4
8. 授業以外で10分以上読書をしていますか。	81.9	48.6

■生活習慣について

朝食を毎日食べることについては、低い値ではありませんが、全国平均よりやや下回っています。就寝時間は全国平均よりやや高く、朝食、就寝時間の結果を見ると、全体的には規則正しい生活が定着しているようです。引き続き、個々の生徒の実態に応じた教育相談を充実させていく必要があります。SNS や動画視聴については、内訳を見ると、全体の36.4%の生徒が2時間未満の使用時間です。全国平均に比べると大幅に低い値であり、家庭で決められたルールに従って使用されていると思われます。今後も情報モラル教育を継続し、節度を持ったインターネット使用を促していきたいです。

■家庭学習について

将来の夢や希望を持っている生徒は、全国平均よりもやや上回っています。自分で計画的に学習に取り組んでいる生徒が9割を超えており、自分の夢や目標に向けて、家庭学習に前向きに取り組んでいる様子が見え、各教科から出される課題や自学ノートの提出率は比較的高く、家庭学習の習慣はある程度身につけているようです。本校は一人当たりの図書貸出数が佐賀市一位ということもあり、読書率は高いです。新聞を読んでいる生徒の割合は、かなり低いですが、これは新聞を購読している家庭の減少のためと思われます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 生徒自身が見通しをもって学習に取り組むことができるよう、授業では毎時間「めあて」と「振り返り・まとめ」を提示するなど、昨年度に引き続き、誰もがわかる授業内容の工夫と指導方法の向上に努め、さらに個別の対応にも力を入れていきます。
- 学級担任による学習面の個人面談を実施し、その結果を受けて生徒一人一人に応じた課題の内容や量を検討していきます。月曜日の小テストは、国語、社会、数学、英語、理科の5教科で実施します。自主学習ノートを毎日提出させ、各教科担当で確認し、アドバイスを行います。

【ご家庭では】

- テレビ、DVD、ゲーム、パソコン、携帯、スマホなどを使用させる場合は、ルールなどを親子で話し合い、過剰な使用をさせないように引き続きご指導をお願いします。また、学校でも情報モラル教育に力を入れていますので、家庭でも機に応じてお子さんと SNS の使い方について話し合う場を持ってください。
- 学習においては、家庭で学習する習慣を身に付けさせるために、毎日継続させることが大切です。習慣が身に付くまでは、確認の声かけ、習慣が身に付いた生徒に対しては、内容の質を向上させていけるよう励ましの声かけをお願いします。今年度から定期テストがなくなり、各教科で単元テストを行っています。計画的に、継続的に家庭学習を進めることができているか、ご家庭でもお声がけをお願いします。